曽於文藝（うたごよみ）

題字
末吉文化協会会員
瀬戸口　淳民氏

俳句

末吉俳句会

川底の石踊るごと水温む　児玉　典子
葉と花の色相容れて山桜　古藤　まゆ美
竹林の黙破れたる猫の恋　米沢　水無月

大隅俳句会

子と探る空堀の跡雉子の声　福村　よう子
ハーモニカ聞けば青春春隣　岩重　みどり
春のロゼ国内産に舌鼓　鍋山　美智子

短歌

末吉短歌会

「しょうがない」の言葉増えゆく散る花も
咲く花も廻る人生滄桑　森岡　ちどり

標準木の世代交替を聞きしより
諾ひながら少し淋しむ　長倉　佳津子
取りもどすすべなき過去のあれやこれ
春の夕日はつれなく沈む　宝蔵　弘二

大隅短歌会

配達のされし封書の見つからぬ
右手に受けたる記憶はあるに　竹内　娃子
ブルーツースのイヤホンでハワイアン
聞きながら木漏れ日の径春野へ　広川　ミドリ
省らのにぎやかに啼く朝明けに
早春告ぐる水仙匂う　安藤　フヂ子

曽於やごろう短歌会

火山灰飛行機までも打ち負かし
欠航相次ぐ鹿児島空港　木場　アツ子
草の上本を片手に寝転がる
読むのを忘れただ空眺む　徳重　直子

財部短歌会

足音を忍ばせゆっくり庭先を
ツンとおすまし横切る黒猫　杉村　リカ
気がつけば細き手首の腕時計
くるくる回りぬ吾が意に反して　児玉　次雄

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

電話口（でんわぐち）　耳（みみ）んが難聴（ときえ）なっ
叫（おら）っかた　西留　辰子
脳味噌（のうみそ）ん　隅（すみ）んで初恋（はつこい）や
燻（すも）っちょっ　胡摩ヶ野　べぶまつ
沢山子（そがましこ）　女房亭主後悔（かかとときょけ）し
貧乏所帯（ひんじゃどころ）　高瀬　博多夜舟
農作業（さっしごち）　チョノゲ腰下（こしさ）げ
汗拭（あせぬぐ）っ　浜田　一好
春（はい）がきっ　婆（ばば）も草（くさ）ずいも
元気（げんき）じっ　桐野　奈世